

銘酒
乃良
瓶詰

平町四丁目平驛通り
永山酒造店小賣部
電話二〇七番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五二三番

外科
門科線專光 ×
入院應需
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

彼女も
彼も
さうして私も
萬人が萬人……
うまいものは「うまい」と
申します
シユークリーム一ツ五錢
目丁四町平
ヤトモツマ
番四一二話電

花柳科專門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

市原病院

平町田町(電話一一四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原 陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

耳鼻咽喉科專門

場所 (舊診療所裏通り)

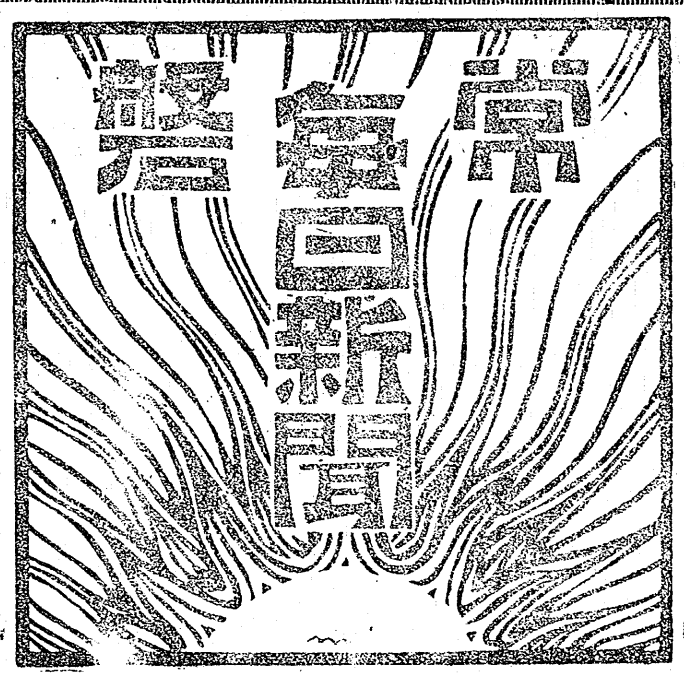
合津醫院

平町仲田町(電話五五九)

吉田眼科醫院

新築移轉
耳鼻咽喉科專門
氣管食道科
平町南町(舊診療所向)電話一七〇番
大和田醫院

内臓外科 專門 藤本 順
骨關節外科
整形外科
婦人科 院長 木村寅次郎
平町新川町
外 科 木村醫院
産婦人科 電話一六四番



刊夕日五月三

日刊 發行兼編輯人 川崎文治 本社同番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

定部金武銭 廣五號十二 休日曜大祭 福島縣石城郡平町長橋町三五
一ヶ月五圓 告一文字行 刊祝日ノ登 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

寄書
岐路に立つ青年
學生の爲めに
不染子

凡そ世態の移り行くこと激しき際は、多数民衆は各自生活問題の爲めに迷ふを常とする。産業革命當時の英國を見るもの思ひ半ばに過ぐべし現代日本の青年學生も今や岐路に立つて左視右顧するもの少なからぬ。是れ一に世態の變遷激甚なる教育の方法を誤まられるが爲めである。例せば知識階級の失業者問題が屢々叫ばるゝに拘らず何等解決の道講せられざる如き、其の適例と云ふべく、洵に由々しき事態にある。如今岐路に立つ青年學生多く、知識階級の失業者少なからざるは、我が邦の教育が無駄多きとして不経済的に陥りたる結果に外ならぬ、即ち眞個の教育なく無駄の教育が盛に施されたからである。今日の教育とは學校教育のみを主とするは茲に小、中、大と順を追ひ、首尾よく之を通過する時は経済的と見るであらうが、之を終るごと其物にも不経済が横はつて居る、さればこそ知識階級に失業する如きものが多

梅毒 皮膚病 婦人病
淋病 腸虫病
門專
院醫科 腸胃病 胃性病 村松
(七〇一話電町南平)

平町細屋町(縣社通り)
美味 評判 **イワキ食堂**
オの部電話四六〇番

新發賣の 品質優秀なる
イワキ石鹼
半打入 五拾錢
にツルヤ
四丁目 電話百四十番

スター好 ナフトール着尺
新柄 モス着尺
新柄 ホグシ銘仙
其外色々取揃申候
平町 (電話五七番)
龜田屋

お伽の小父さん 巖谷小波先生来る

舌と筆に馬力をかけて

お伽のお父さん巖谷小波先生は午歳生れの六十歳、漸く老境に入つたが元氣よく、壯者を凌ぐ概あり昨年の秋福井の講演先で一寸病氣に見舞れたもの、今では夫れも全快し「ジツ」としては居られぬ」とばかり舌に筆に馬力をかけて本縣濱通りを行脚する事になった、日程表は左記の如く未だ平町だけが決定して居らぬが多分教育會や他団体聯合で講演會を催す事となり久し振りで嚙咳に接するの機會を得るであらうと

濱三郡を行脚 排水が進捗

石城郡好間村隅田川炭礦が去月中浸水して採炭不能に陥つた旨既報したが其後同會社では全労働者二百名は一時他坑に轉せしめ大揚水機を据付け晝夜兼行排水に努めたる結果豫定通り來月二十五日頃迄には採炭作業に着手されるものと觀られてゐる

小名濱泉間 道路を改修

豫算を町會へ
植田町より小名濱町及び泉驛に至る舊郡道は町から町へ且小名濱町發展と共に重視され古川縣議が且て縣道移管に運動せる道路であるが途中岩間、七曲、小濱、眞坂等の急坂あり小濱岩間の部落民は本路改修に奉仕しつゝあるが更に本年度より三ヶ年繼續改修のため二日小濱代表明議渡邊國之助、豊田丑松の二氏見積り豫算一千二百二十四圓にて同町々會に提出することになつた同道路沿線はかくれたる名勝地照島、劍崎等の外夏季

巡査を表彰

川部村にて
川部村駐在巡査富田彌吉氏は獎勵格別執務成績優良を以て一昨年昨年と二ヶ年連續に植田署長の表彰を受け村民より模範巡査と慕はれてゐるが今回同村消防組幹部はその表彰方法を附議する

法人所得税 不況で減る

無配當多くて
濱通り石城地方における金融機關は昨年十一月警備銀行の休業を始め平銀行と常警と合併四倉銀行の支拂制限等相次ぎ現在閉店してゐる警備、警備實業兩行共三年度下半年は無配當で植田町警備銀行が五分の配當を行つたに過ぎず二年度までは銀行の營業収益税及び法人所得税により平稅務署では二萬五千餘圓を徵收し得たものが三年度は警備



家庭欄

女工を目指す 女中や子守拂底

石城郡植田町地方に於ける子守及女中は極めて拂底し困難してゐるが地方農村子女は小學校卒業と共に多く溜つてきますから其時眼を開くと涙と共に自然に洗流されるものですが、母親のお乳をさしても流れ出ます若しどうしても出ません時は清潔な水をコップに入れ、顔をひるがへし異物が發見されたら脱脂綿をコップの水に浸して軽く其異物を拭ひ去ります。異物は主と

財界救済 伏見町長出福

明六日午後一時から福島市に於て縣下財界救済に關し縣會議員や市町村長其他參集大評定を行ふ筈で伏見平町長も出席する由

十數回萬引 然も同一の家

平町字仲間町居住伊達郡川俣町生れ小柳ナミ(三七)は三年前から平町字新川町太物商諸橋國松方頭より十一回に亘りメリンズ十五反(代金百十圓)を窃取し各所に入質し居たる事平署柴崎半澤の兩刑事に探知檢舉さる

明日の天気
小雨模様
次第に晴

平署が剣道の 階級試験を行ふ

一般外來者を歓迎
平警察署にては武道奨励の爲め三月八日より三日間剣道講習會を催し十日には階級試験を行ふ由であるが、會費は無料で階級受驗料は段三圓、級五十錢であるが因に教士は小川文章氏にて一般外來者を歓迎すると

廿五年間勤続 小使と爺

小使と爺
二十五年間勤続した小使と爺の物語。小使は平郵便局に居る、それは平郵便局に去る二月末日迄勤めて居る。

雨の日も 風の日も

カバンを肩にした君の姿が、區内町村の何處かに現れてゐた、大正十一年二月平局が二等局に昇格の際君に更に小使として、勤務する様になり今日に至つたのであ

機關手試験 漁船乗込の

小名濱町縣水産試驗場では遞信省漁船機關手受驗者を養成すべき目的で去月十四日より機關手養成講習會を開催中であつたが愈々四日を以つて修了したので七八の兩日同省から試験官が出張し同場に於いて修業試験を執行する

平町人事

△出生
△鎌田町二七 小川新之助氏三男二郎
△三丁目二 星野充一郎氏長男稔
△死亡
△大工町二六 當時北海道警備郡宮本美智夫(三三)